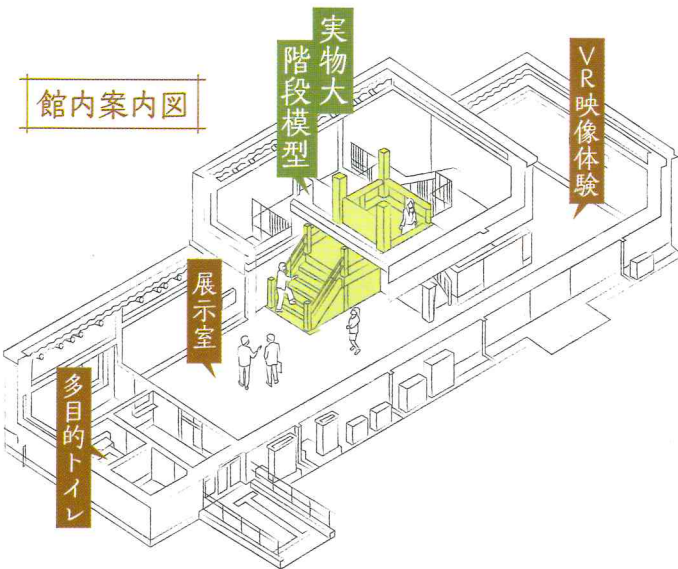


施設案内

名古屋市では、現在の天守閣が抱える耐震性の確保等の課題の克服や特別史跡名古屋城跡の本質的価値の理解を促進するため、現代に残された豊富な資料に基づく天守閣の木造復元を進めています。

「ステップなごや」では、天守閣木造復元に必要な実験等を実施するために制作された「実物大階段模型」が展示されており、一階層分の階段空間やその昇降を実際に体験していただけます。加えて、名古屋城に関する様々な展示や天守閣木造復元イメージVR映像体験もお楽しみいただけます。

天守閣の木造復元に先駆け、これらの体験を通し、天守閣の重要な構成要素である階段の美しい姿や空間を体感していただければ幸いです。



館内案内図

多目的トイレ

展示室

実物大
階段模型

VR映像体験



名古屋城天守閣寄附金 (金シャチ募金)



平成29年(2017)から、名古屋城天守閣積立基金を設置し、「名古屋城天守閣寄附金(金シャチ募金)」の募集を開始しています。募金の趣旨にご賛同いただき、皆様の格別のご支援を賜りますようお願いいたします。

アクセス



公共交通機関をご利用の場合

地下鉄名城線「市役所」下車
市バス「名古屋城正門前」、「市役所」下車
名古屋観光ルートバス「メーグル」 「名古屋城」下車
※専用駐車場はございませんので、正門前駐車場等をご利用ください。

入館料 無料

開館日 土・日曜日、祝日

※年末年始(12/29~1/3)を除く

開館時間 午前10時~午後5時

※「実物大階段模型」は階段昇降の新技術の実証実験等を実施するために制作されております。開館日に実証実験等を実施する場合は、閉館となる場合がありますのでご了承ください。

※VR映像体験は時期によって休止する場合がありますのでご了承ください。

※階段昇降機等はありません。

名古屋城総合事務所

〒460-0031 名古屋市中区本丸1番1号
TEL:052-231-1700 FAX:052-201-3646
URL: <https://www.nagoyajo.city.nagoya.jp>



実物大階段模型

天守閣の階段

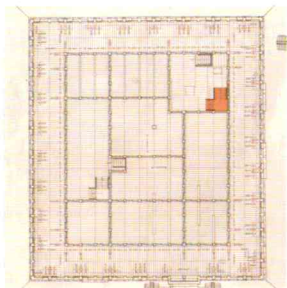
「昭和美測図」では、大天守閣には、表階段と御成(おなり)階段のふたつの階段が表記されています。

『金城温古録』では、中央西寄りの御成階段は「御成階(はしご)」と表記されており、寛永11年(1634)に將軍徳川家光が来城の際に使用したためにこの名が付けられ、藩主が天守閣に登る際には表階段を使用していたとされています。

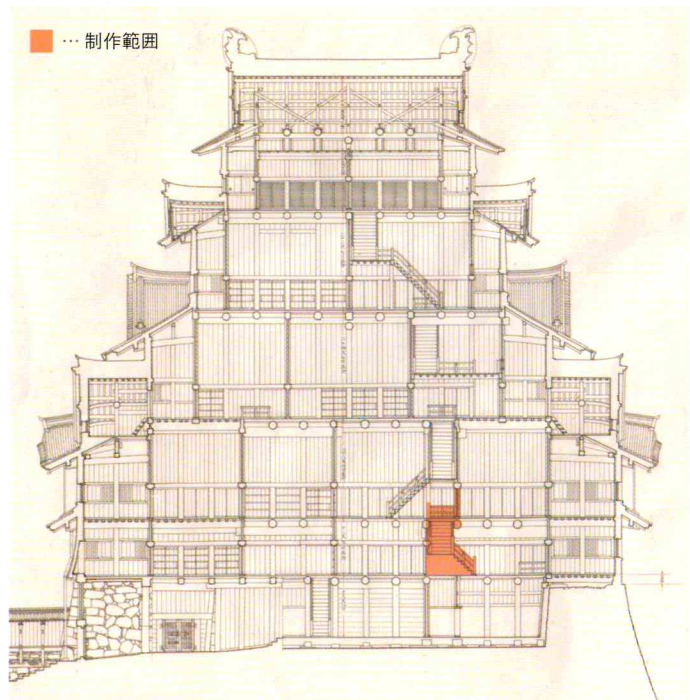
制作階段の位置

階段体験館に展示されている実物大階段模型は、一層から二層にかけての表階段を再現しております。

※実験等に必要形状・寸法は再現していますが、使用材料等、焼失前の天守閣と一部異なる場合があります。また、史実の検証等は引き続き行なっているため、天守閣木造復元の際には仕様変更される可能性があります。



昭和美測図 名古屋城天守初層平面図

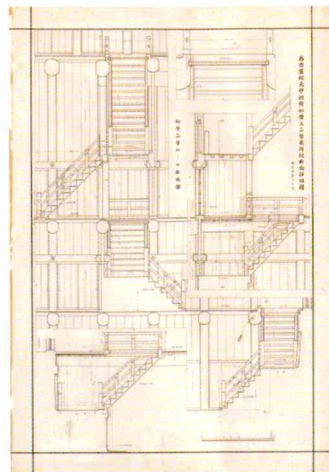


昭和美測図 名古屋城天守縦断面図

制作過程

① 史実調査

焼失前の建物の寸法を実測した昭和美測図、ガラス乾板写真等の現代に残された豊富な資料を基に史実に忠実な往時の階段の姿を検証していきます。



昭和美測図 名古屋城天守地階初層及二層表階段断面詳細図



コンピューター上で3Dモデルを作成しました。



3Dプリンターで模型を作成し、詳細に検討しました。



神社仏閣の建築に携わる宮大工と議論を重ね、検討していただきました。

③ 部材の加工

決定した部材形状を反映した3Dモデルの情報を基に部材を粗取り、最後は、宮大工の手で仕上げられます。



最後は熟練した技術を持つ宮大工の手で仕上げられました。



仮組みをし、部材の納まりを確認しながら調整しました。

④ 組立

加工した部材を現場に搬入し、宮大工の職人技をもって組み上げられます。



組立前に微調整のため加工を施しました。

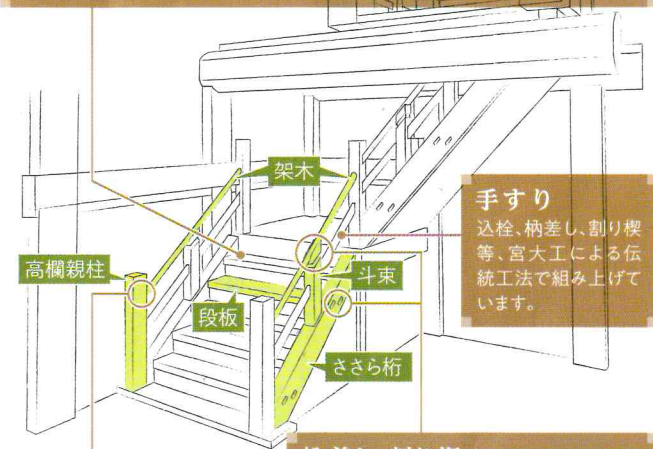


仕口の組み上げに精巧な職人技が光りました。

見どころ

昇降部

幅員140cm~160cm程度、厚み75mmの大きく頑丈な段板で構成されます。一層から二層まで上がるまでに段数が17段あり、中間の踊り場までの勾配は約41度、踊り場から上が約47度あります。



架木
高欄親柱
段板
ささら桁

手すり

込栓、柄差し、割り楔等、宮大工による伝統工法で組み上げています。

込栓(こみせん)

2つの部材を固定するために横から貫く堅木材を込栓と言います。高欄親柱(こうらんおやばしら)と架木(ほこぎ)等の接合部で見ることができます。

柄差し・割り楔(ぼぞさし・わりくさび)

部材を繋ぎ合わせるとき、一方の端に作る突起を柄と言います。柄差しした部材が抜けないように柄の先端に打込む楔を割り楔と言います。段板とささら桁、手すりの斗束(とづか)と架木(ほこぎ)等の接合部で見ることができます。

天守閣木造復元事業

現在の天守閣については、戦後、市民の多大な寄附により再建された鉄骨鉄筋コンクリート造の建造物ですが、再建から半世紀が経過し、設備の老朽化や耐震性の確保などの問題が発生しています。そのような課題を克服するとともに、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の理解を促進するため、「金城温古録」や「昭和美測図」「ガラス乾板写真」など、現代に残された豊富な資料に基づく天守閣の木造復元を進めています。